

## 介護福祉研究会の紹介

高齢化が進む中丹地域においても事業ニーズが高く地域密着型産業である介護福祉分野において、地域密着型製品開発に挑戦する企業に対し新製品開発を支援する研究会活動を行っています。

従来の福祉用具開発は、万人が見てカテゴリー分類がはっきりした製品の開発・改良が主なものでした。そのため人体に対する運動工学の専門知識や、機械器具を形作るために、高度な制御・機械工学の知識が必要となってきています。日々の生活をちょっと快適にするには、高度な機器類が必ずしも利用されているだろうかとの反省から、当たり前の概念ではありますが、「地域の福祉施設は生活の場である」という考えに立ち、施設内での介助者や生活している入所者が抱える日々のお困りごとを、福祉の現場だけではなくものづくり企業としての視線を交えていかに解決するかを開発思想として、ものづくり企業が集まりました。

### 研究会概要

会 員：中丹企業3社

外部指導員：京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 三橋 俊雄 教授

活動内容：概ね月1回、プロダクトデザイン分野の専門家より指導を受けながら、試作品に対する作品コンセプトの摺合せ、試作品の持ち寄り検討、試作品製作を実施

### 取り組み内容

【平成24年度】

#### ●介護者の「入浴が楽しみになる擬壁画」を企画・試作しました。

試作品を綾部市内の福祉施設に設置し、得られた印象についてアンケートを実施したところ、

- ◇介助者の2/3は擬壁画に対し好印象を受けている
- ◇介助者から見て、利用者の擬壁画に対する印象が「良い」
- ◇介助者から見て、利用者の擬壁画を見ることで、介護状況の変化があるかどうかは、4割が「変化有り」
- ◇介護者の擬壁画に対する反応がある場合には、約4割が「会話が弾む」や「入浴に向かう手間の低減」等の具体的なメリット有り

との結果となり、介護者の入浴への楽しみが増え、介助者による移送や入浴介助時の労力低減が期待されます。

【平成25年度】

#### ●作業負担を軽減する「把手付き介護用ベスト」を企画・開発中です。

「心のふれあう介護」をテーマとして、介助者が着用する介護用ベストの把手に要介護者が掴まることにより、介助者の介護負担軽減を図るとともに、介護される要介護者にも自ら介護に参加しているという意識を持ってもらうことを目指しています。

#### ●車いすを2台連結させ、緊急時等の早期避難を助ける「車いす連結器」を企画・開発中です。

車いすの連結方法として、縦連結方式、横連結方式等、さまざまな連結方法を試行錯誤しながら、より実用性の高い製品の開発を目指しています。



写真1 浴室に設置された擬壁画



写真2 介護用ベスト試作品



写真3 車いす連結器試作品

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 中丹技術支援室 TEL: 0773-43-4340 FAX: 0773-43-4341 E-mail: chutan@mtc.pref.kyoto.lg.jp